

2007年度よりみすみ病院に整形外科常勤体制が始まり、5年が経過した。

宇城・三角地区は、住民の超高齢化や独居老人も多く、社会的問題が多数ある。整形外科では、ロコモティブシンドローム（略してロコモ）対策が大きな課題である。ロコモとは運動器の障害（整形外科疾患）によって、介護や介助が必要な状態、あるいはそのリスクが高くなっている状態である。具体的には、変形性膝関節症や変形性脊椎症、脊椎圧迫骨折や骨粗鬆症が原因となる。当整形外科では、変形性膝関節症に対し、ヒアルロン酸の関節内注射や薬物療法、手術的治療に積極的に取り組んでいる。骨粗鬆症に対しては、新しい骨形成促進剤であるテリパラチドの注射（フォルテオ）を導入し、重症の患者さんに使用し成果をあげている。個々の患者さんの骨粗鬆症の状態に応じた、テーラーメイドの治療に取り組んでいる。

これらの膝や腰の難治性の痛みに対し、新しいオピオイドテープ（ノルspan）を導入し治療を行っている。またそのほかの慢性疼痛の治療にも取り組んでいる。

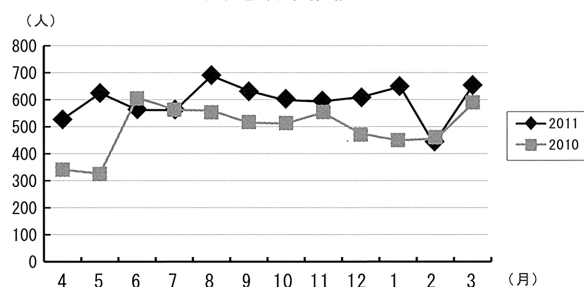
2011年度の手術は、大腿骨頸部骨折・転子部骨折に対し骨接合術 36例、人工骨頭置換術 8例を行った。

人工関節は、人工膝関節置換術 22関節、人工股関節置換術 2関節を行った。

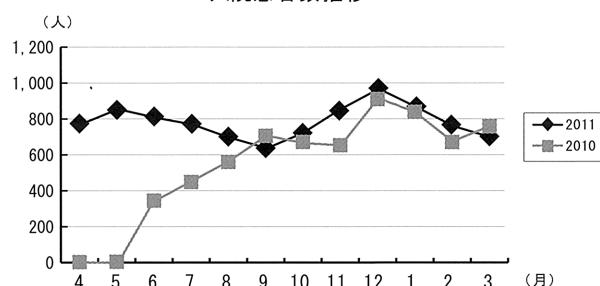
その他の骨折の手術を 52例、その他整形外科手術を 13例 合計 133例の手術を行った。

運動器疾患は、膝や腰の痛みだけではなく、手足のしびれを起こす疾患や、手足の変形や痛みを起こすリウマチ性疾患など多岐にわたる。レントゲンやMRIなどの画像診断、血液検査などを行い、正しい診断を目指し、適切な治療を行えるよう心がけている。宇城・三角地区の中核医療機関となれるよう2012年度も取り組んでいく。

外来患者数推移



入院患者数推移



OP件数推移年度比較

